

令和4年度 実施事業の概要

| |
|---|
| 施設名: 国立妙高青少年自然の家 |
| 教育事業名:「チャレンジキャンプ2022」 ～仲間と共に踏み出す「自分の一歩」～ |
| 期間:事前キャンプ:令和4年7月9日(土)～7月10日(日) 本キャンプ :令和4年7月30日(土)～8月7日(日) |
| 対象及び参加人数:小学校5年生～中学校3年生 14人 ※ただし本キャンプは2名欠席 |
| 目的: ○「豊かな心の育成」のためのプログラム開発(自己肯定感を育む)と成果の普及 ○統合型キャンプの成果の普及 ○参加者の変容を調査し、その結果を質的・量的に分析したデータの提供 以上について、報告書にまとめ、新潟県内の小・中学校、教育委員会等に配付する。 |
| 事業概要: 本事業は、子供たちの自己肯定感を育むために実施した8泊9日の長期キャンプである。また、統合型キャンプとして、性別や障害の有無等に関係なく、様々な個性や特性をもつ子供たちが、自然への挑戦や他者との協働を通して、成長し合えることをねらいとしているキャンプでもある。活動場所は、妙高青少年自然の家、船見公園、野尻湖、キャンプ場(平山、やすらぎの森、笹ヶ峰)、火打山・妙高山である。様々なチャレンジを仲間と協力しながら乗り越えていくことを通して自己肯定感を育成する。 |
| 成果 ○グループの仲間と相談し、マップをもとに目的地まで歩いたり、買い物した材料でオリジナルカレーを作ったりするなど、子供たちが主体的に取り組んだ。キャンプ終盤では、ゴールパーティーを自分たちで企画運営するなど、キャンプ全体を通して、自己肯定感を高めた。 ○野外炊事を繰り返し行ったことで、自信を高め、仲間との結びつきを強めた。 ○日々の活動後の振り返りをじっくりと行った。自己を見つめ、グループの仲間と共有するなかで、自分のよさや仲間のよさに気付いていった。キャンプ全体の振り返りとして、キャンプ中の写真を使い、自己の成長をまとめた。キャンプの閉会式では、保護者にまとめた振り返りを見せながら自分の成長を伝え、フィードバックを得ることができた。 ○ステージ制、スモールステップ型の体験活動など、キャンプを構造化したことやカウンセラーの受容的共感的なかわり方によって、参加者が安心安全に活動プログラムに取り組むことができた。 ○感染症対策として、テント1つにつき1人泊、一人一人の体温チェックとカウンセラーの面談による健康観察などを実施し、無事に全日程を行うことができた。 |
| 課題: ・安全対策の強化(火の扱い、悪天候、雷対応とエスケープルートの確保等)。 ・効率的かつ安全にキャンプを実施するための体制作り。サポート体制の整理。 ・子供の主体性を引き出す工夫。 ・カウンセリングアプローチの視点を意識した振り返りの充実。 |

